

自己評価

結果報告書(2024年度)

令和7年3月31日

学校法人共生学園

新横浜歯科衛生士・歯科技工士専門学校

歯科技工士科

歯科衛生士科

目 次

1. 学校の教育理念・教育目標	2
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	2,3
3. 評価項目の達成及び取組状況	4
(1). 教育理念・教育	4
(2). 学校運営	5
(3). 教育活動	6,7,8
(4). 学修成果	8,9
(5). 学生支援	10
(6). 教育環境	11
(7). 学生の受入れ募集	12
(8). 財務	12,13
(9). 法令等の遵守	13,14
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	14,15

1. 学校の教育理念・教育目標

教育理念

共生社会の実現に向け、学生一人ひとりの個性を守り、育み、成熟した人間性の獲得を目指す。「素直・正直・謙虚」な心をすべての者が実践し、互いの能力、魅力、行動力を高め合い、その中で歯科医療従事者としての知識、技術、教養を身に付け、能動的に実行する人材を輩出する。

教育目標

常に歯科医療人としての立場を弁え、責任と覚悟を持った向上心のある人材の育成。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1ー国家試験合格率 100パーセントの維持
- 2ー入学者の定員充足と退学者・休学者ゼロの実現
- 3ー多職種連携を意識したカリキュラムの構築
- 4ー教職員のレベルアップ及び学生の知識・技術の平均化
- 5ー規律正しい生活、学校生活への意欲的な参加を促せるような教育
- 6ー社会に適応できる人材育成

- 1ー国家試験合格率 100パーセントの維持

【歯科技工士科】

受験者17名全員合格となった。

【歯科衛生士科】

全員合格を継続する事が出来た。

- 2ー入学者の定員充足と退学者・休学者ゼロの実現

【歯科技工士科】

退学者：1学年3名、2学年1名 両学年休学者無し

登校することができず、出欠時間数の不足

職業への目標が意欲をなくしてしまった。

出欠状況が悪くなり、勉強意欲がなくなってしまった。

卒業認定試験を合格することができなかった。

【歯科衛生士科】

定員を充足させることが出来た。

退学者：1学年2名、2学年2名、3学年0名

校則違反による補習中に退学した学生、臨床実習 D 判定の補習が合格せず留年になった学生がいた。

日頃から見える学生の様子から、早目の聞き取りをする。

欠席が見られるようになる前に早目の声掛けを心がけ、欠席が増えた学生に対しては、保護者と連携を取る。

保護者も欠席を認めるケースには、出席の必要性を伝える。

3ー多職種連携を意識したカリキュラムの構築

【歯科技工士科】

卒業研究、幼稚園実習を通し、それぞれチームワークを意識し、連携や役割を理解した。

合同実習は専門職の役割を活かし、作業別で説明、実習操作が互いに学べる授業を行えた。

臨床現場での見学授業を行い、歯科治療に関わることで、専門性の高い職業と連携の重要性を学んだ。

技工作業では、基本操作の反復練習年間を通し行い基礎技術の向上につながるきっかけとなった。

積極的な行動力の促し、指導側のスケジュール管理をする必要があった。

個々の役割では行動、能力差がおこってしまう状況もあり改善の必要もあるが、サポート、目配りをする学生もいて、協力や指導がスムーズに行える場面もあった。

【歯科衛生士科】

従来の合同実習に加え、横浜グリッツの選手に対し歯科衛生過程を行った。

特別養護老人ホーム「メゾンヴェルト」での臨地実習では、食事介助や摂食嚥下体操などが行われた。

今年度より行われた神奈川歯科大学付属病院実習では、様々な職種の方々と共に実習を行った。

幼稚園実習から保育園実習に変更があった事で、さらに多職種の理解が高まった。

4ー教職員のレベルアップ及び学生の知識・技術の平均化

【歯科技工士科】

基礎的な知識の教え込みが整った上で、個々の状況に合わせ指導、サポートを行う。

学生状況の把握がそれぞれ足りない、指導対象となる学生のサポートと教員間での共有が必要。

【歯科衛生士科】

神奈川歯科大学付属病院と特別養護老人ホームケアセンターメゾンヴェルト実習では、教員が全員参加し、次年度の実習内容に向けての幅が広がった。

教員同士が常に相談し連携が取れていたため、学生指導・評価が公平に行えた。

5ー規律正しい生活、学校生活への意欲的な参加を促せるような教育

【歯科技工士科】

スケジュール調整を行うことで、学生の提出期限の設定や課題の周知を行い、自ら行動できるよう指導をした。
校内生活での細かい行動での注意、伝達を行い、改善等行えるよう指導をした。

【歯科衛生士科】

出欠席や規則等、教員が同じ目線で指導が出来た。

季節に合わせたイベントを定期的に行った。

6ー社会に適応できる人材育成

【歯科技工士科】

全体目標や個々の目標に進むことができるよう、授業での話し方、行動に注意を払い、上記、生活面も含め指導に努めた。

【歯科衛生士科】

学校生活のルールそのものが社会のルールに沿っているため、日々自然と育成出来ている。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか		
	歯科技工士科	4
	歯科衛生士科	4
2. 社会の動向を踏まえニーズに沿った教育を行っているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
3. 学校の理念・教育目標・育成人材像の周知は十分か		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3

現状

【歯科技工士科】

1. 前記1の教育目的と方針に基づき実践と強化に努めている。
2. 近年の流れに沿い、効率化・デジタル関係に対応できるよう、教育時間を多くし、育成を行っている。求められる人材育成の教育を努める。
3. オープンキャンパスにより、生徒・保護者に周知している。SNSの利用も行っている。

【歯科衛生士科】

1. 教育理念で謳っている『成熟した人間性の獲得』を強化するため、挨拶や立ち居振る舞い、掃除等を日頃から習慣化出来るよう声掛けを続けた。
2. 超高齢社会の現在、メゾンヴェルト実習で高齢者に接し理解を深める事は有効だと考える。
多職種連携を意識した授業、実習が増えた事で、他業種への理解をさらに深めた。
3. 体験入学やパンフレット高校ガイダンスに加え、SNSでの周知回数が増えた。

◆ 点検及び今後の課題 歯科技工士科 10点

2. 卒後の将来性、将来像の周知や臨床現場の知識、技術を知りコミュニケーションと積極性が必要となる授業が行えるよう努める。各学生全体、個々の能力に応じて授業の構成を考え、スムーズに進められるように管理体制を整える。
3. 種々の媒体でもわかりやすく表記し、一層の効果をあげたい。

◆ 点検及び今後の課題 歯科衛生士科 10点

2. 即戦力の輩出のため、教科書上だけでなく臨床にも通用する知識・技術を付けるよう、さらに指導の幅を広げる。

(2). 学校運営

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 教育目的等に沿った運営方針が策定されているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
3. 組織体制について運営組織や意思決定機能は、明確化されているか、有効に機能しているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
4. 人事、給与に関する規程・コンプライアンス体制等は整備されているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
5. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3

現状

1. 学校運営方針は年度初めの教職員会議において各部署の事業計画・目標及び業務の円滑化を図るための業務分掌の説明がされる。

2. 年度の事業計画は、各部署にて事業計画を検討、3月に開催される理事会・評議員会において決定され、教職員会議にて教職員に周知される。なお、年12回開催される教職員会議で各部署の進行状況が明確に報告されている。
3. 人事・給与については、就業規則・給与規定に基づいて決定されている。
4. コンプライアンスについては、各種法令に基づいて教職員に周知されている。
5. 教育活動等の詳細な学校情報については2019年度よりホームページにて情報公開を行っている。

◆ 点検及び今後の課題 歯科技工士科 15点

3. ミーティングで共通認識を一致させ、スムーズに運営できるよう努めたい。
4. 随時、就業規則を見直し現状に即した運用に努めている。
5. シラバスは2019年より情報公開している。

◆ 点検及び今後の課題 歯科衛生士科 15点

3. 月に1度の教職員会議で各部署の進行状況が明確に報告されている。
4. 随時、就業規則を見直し現状に即した運用に努めている。
5. シラバスは2019年より情報公開している。

(3). 教育活動

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
3. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
4. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成見直し等、外部による評価が行われているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
5. 授業評価の実施・評価体制はあるか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	4
6. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に示されているか		
	歯科技工士科	3

	歯科衛生士科	4
7. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
8. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
9. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
10. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか		
	歯科技工士科	2
	歯科衛生士科	3

現状

【歯科技工士科】

1. 教育方針に従い自覚、常識を身に付けられるよう教育を意識して編成、実施をした。
2. 養成所規則に基づき目標とする到達レベルに進められた。
3. 実践的な教育を行うため、基本作業のほか、外部協力による情報や他職協力が必要である。
4. 外部関係者施設との連携、情報を得られた教育カリキュラム構築の継続。評価などに対し意見、改善の話し合いの後、次年以降改善、実行を目指す。
5. 教科ごとに授業アンケートを行い評価材料としている。
6. 学則に基づき、各項規定の基準は明確にされている。
7. 養成所規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムは体系的に位置づけられている。
9. 臨床も業務に組み込みながらバランスをとり、教育業務を行っている。
10. 全員が対応にあたることができる様、知識・技能の情報と共有を行う必要がある。

【歯科衛生士科】

1. 教育方針に従い自覚、常識を身に付けられるような教育を意識して編成、実施をした。
2. 明確にされている。
3. 即戦力のある歯科衛生士を育てるため、臨床に即した実習を取り入れている。
また、ノンテクニカルスキルや能動的な姿勢を高める為に、接遇やアクティブラーニング。
多職種連携を学ぶためには、介護福祉士や看護師、歯科技工士科との講義や実習をさら増やし対応した。
4. 月1回以上関連施設等とコミュニケーションを取り、改善点をカリキュラムに反映させている。

また、臨床実習受け入れの歯科医院とは、年2回医院ごとに会議を行い、評価表だけでは見えなかった学生の様子を確認し、フィードバックに役立てている。

5. 年2回、学生による授業評価を実施し、改善を図っている。

6. 明確にされている。

7. 学年毎に、基礎、応用、復習と段階を踏んで指導体制を整えている。

また、国家試験対策開始時期の前倒しを図った。

8. 資格、経験を備えた教員を確保している。また、卒業生を採用し、教員の要件を満たすまでの間に育成を行う事で、将来的な確保に繋げている。

9. 臨床経験のある教員が、講義・実習時に伝えている。

10. 勉強会で知識、技能を共有し、知識と技術の向上に努めているが、新しい試みはなされなかった。

◆ 点検及び今後の課題 歯科技工士科 29点

4. 外部評価が授業内で行えるよう構成と改善を行う。

8. 各教員の指導の統一性をもった授業を勧められるよう努める。

9. 教育面におけるサポートの充実に努める。

10. 教員研修は定期的に参加をし、得た情報の共有を行い指導の方針、資質の向上を目指したい。

◆ 点検及び今後の課題 歯科衛生士科 32点

1. 次年度の編成、実施方針の決定に向け、改善点を常に模索する。

2. 到達出来ない学生に対し、指導の改善点をカリキュラムに反映する。

3. さらに理解を深められるよう、見直しを行う。

4. カリキュラムへの反映は、即座に行う。

5. 授業のみでなく、実習への評価方法も加える。

7. 国家試験対策の際、関連する内容を繋げた講義を強化する。

8. 育成の為に、今後も知識、技能だけでなく、人間性を重視し、人材を確保する。

10. 学生へ生きた教育を行えるよう、常に今を把握する。

(4). 学修成果

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 明確な基準に基づいた実践能力及び学習能力を単位履修の認定基準にしているか	
	歯科技工士科 3
	歯科衛生士科 3
2. 資格取得率の向上が図られているか	
	歯科技工士科 2

	歯科衛生士科	3
3. 就職率の向上が図られているか		
	歯科技工士科	4
	歯科衛生士科	4
4. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか		
	歯科技工士科	2
	歯科衛生士科	3

現状

【歯科技工士科】

1. 歯科技工士養成所規則に基づいた単位数・時間数以上で設定され、十分満たしている。
2. 例年対策を行ってきたが、今年度は個別指導に重点を置く必要があった。
3. 就職活動、見学のサポート行っている。
4. 卒業後は一部の把握でとどまっている。

【歯科衛生士科】

1. 単位修得の認定基準は明確である。
2. 近年は例年 100% 国家試験合格の実績がある。
3. 就職セミナーをさらに早期より行い、個人に対しては就職相談を行っている。
4. 卒業後も卒業生より聞き取りをし、必要な内容をカリキュラムに反映する。

◆ 点検及び今後の課題 歯科技工士科 11 点

2. 少人数制の特徴を活かし、一人一人の現状の把握、技術の平均化の環境を整えたい。
学業のみではなく生活面からの指導も構内で可能な限り行い、早期対応にあたる。
3. 資格の取得に至っているが、就職への意欲が消極的な学生もいるため、モチベーションの維持、実情などを正確に伝え、社会への貢献、必要性が伝わるよう努める。
4. 卒業後は全員の把握には至らない点があり、近隣企業へ定期的に現状を知るためのアンケート調査など検討し、把握に努めたい。

◆ 点検及び今後の課題 歯科衛生士科 13 点

1. 実践能力については詳細な基準に加え補習等の習得期間を設け、実力の平均化を行う。
2. 国家試験対策の内容を前年同様前期より行う。
また点数だけにとらわれず、3 年間個人を見守り続けてきた教員ならではの判断も大切にする。
3. 業者によるセミナーや説明会の機会を増やす。
4. 卒業生のデータをさらに集め、学習内容に反映する。

(5). 学生支援

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
2. 学生相談に関する体制は整備されているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	4
3. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	4
4. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	2

現状

【歯科技工士科】

1. 進路・就職のガイダンス授業を行った。求人票の統一化に努めた。
2. 基本情報共有はされている。個々の相談については共有しながら対応にあたっている。
3. 健康診断をおこない、衛生管理の徹底と健康管理の指導を行った。
4. インターンシップを行い、職業の認知、重要性を周知できた。

【歯科衛生士科】

1. 就職ガイダンスを早期に取り入れた。
課題であった社会保険・福利厚生など学生の疑問を解消できる体制を整えた。
2. 少人数制なので、教員間での生徒の情報共有は出来ている。
また、学生の相談時には複数又は教員全員で話を聞き、アドバイスが偏らないための体制を整えている。
3. 毎朝検温をし、体調の悪い学生への対応をする。
4. インターンシップやガイダンス等で現状の把握をした。

◆ 点検及び今後の課題 歯科技工士科 12 点

1. 今後はオンライン等を活用し、時間の無駄になるものは避けながら対応できるよう検討したい。
2. 学生の状況を理解し、サポートをしながら相談にも応じている。
4. 校内整備も済んできたため、インターンシップなどの参加協力をし、各学校との連携を図りたい。

◆ 点検及び今後の課題 歯科衛生士科 13点

1. 学生が歯科医院以外への就職をイメージ出来るような指導も必要と考える。
4. ガイダンスへの教員参加を増やし、参加者の知りたい情報を適切に伝える。

(6). 教育環境

評 価 項 目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できようになっているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	4
3. 防災、安全管理にたいする体制は整備されているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	4
4. 防火訓練を実施しているか		
	歯科技工士科	4
	歯科衛生士科	2

現状

【歯科技工士科】

1. 教育に必要な機材は備えている。
2. 歯科医療に関わる実習施設との連携はとれている。
3. 安全管理は、マニュアル化されている。
4. 防災訓練を年2回実施、校内の安全マップを作成し避難経路、訓練を行う。防災器具、避難器具の説明を周知した。

【歯科衛生士科】

1. 教育に必要な機材は備えている。
2. 歯科医療に関わる実習施設との連携はとれている。
3. 安全管理は、マニュアル化されている。
4. 防災訓練を行い、校内の安全マップを作成し、防災器具、避難器具の説明を周知した。

◆ 点検及び今後の課題 歯科技工士科 13 点

1. 応用、最新の技術に対応できるよう先の状況を読み、機材・器具をプラスαで備えたい。
2. 歯科医療に関わる施設を連携できるように整えたい。

◆ 点検及び今後の課題 歯科衛生士科 14点

4. 昨今起きると予想されている首都直下地震などによる同時多発火災も想定し、備える必要がある。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 学生募集活動は、適正に行われているか		
	歯科技工士科	4
	歯科衛生士科	4
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3
3. 学納金は妥当なものとなっているか		
	歯科技工士科	3
	歯科衛生士科	3

現状

【歯科技工士科】

1. 定期的に民間が主催するガイダンスに積極的に参加をしている。
出願については専修学校各種学校協会の取り決めに沿い、新卒者募集は10月以降の入学選考を行っている。
2. 就職率、国家資格合格率や学生人数などはホームページ情報公開をしている。
3. 関東首都圏の他の学校の平均的な水準で妥当である。

【歯科衛生士科】

1. 適正である。
定期的な学校訪問と民間が主催するガイダンスに加え、年間12回のオープンキャンパスを実施している。
2. パンフレットや資料、を用いてわかりやすく、正確に説明を行っている。
また、オープンキャンパスやSNSでも周知している。
3. 関東圏の衛生士専門学校と比べても金額を抑えており、妥当な金額と考える。

◆ 点検及び今後の課題 歯科技工士科 10 点

SNSの配信機会を増やし、日常の様子などが分かりやすく進路先として信頼されるよう努めたい。

◆ 点検及び今後の課題 歯科衛生士科 10 点

- 1、2. 伝えたい事と入学希望者ニーズのすり合わせをする。
3. 世の中の情勢や他校様の状況に応じ、適正に判断をしていく。

(8). 財務

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか		
	学校法人共生学園	4

2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
学校法人共生学園	4
3. 財務について会計監査が適正に行われているか	
学校法人共生学園	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	
学校法人共生学園	4

現状

1. 歯科技工士の定員充足が例年の課題であるが、ここ数年は少しずつ学生も増えてきております。収益事業であるマンションも入替りはあるもののほぼ満床を維持できており計画通り安定的なものであると考えている。
2. 予算に関しては、概ね計画通りである。物価高騰により支出が増えてくる部分に関しては、在庫管理を徹底し物を大切にすることや無駄をなくすことなどより一層教職員の意識をあげる努力をしている。
3. 月に一度の月次決算により適正に行われていると考えている。
4. HPにより公開している。

◆ 点検及び今後の課題 学校法人共生学園 16点

1. 大学も定員割れの問題が続いており、今後専門学校もより一層学生確保が難しくなると考える。世の中の歯科への注目度が増す中、両科ともに無くてはならない職種の為認知向上や将来性を積極的に配信していく。
2. 引き続き無駄な支出を省き学費の面においても学生に選ばれる学校であり続ける。

(9). 法令等の遵守

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	
学校法人共生学園	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
学校法人共生学園	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
学校法人共生学園	3
4. 自己評価結果を公開しているか	
学校法人共生学園	4

現状

1. 各専門機関と密に連携を取り適正な運営に努めている。
2. 教職員又は学生の個人情報は事務所内の施錠出来る環境で保管している。SNSの発信に関しては、事前に公開不可の学生を把握することや公開前のダブルチェックを行うなど個人情報を守るシステムを確立している。
3. 自己評価については毎年度末に実施。毎月の教職員会議にて日々の状況を共有し、問題解決に向けての方針を決定している。
4. HPにて公開している。

◆ 点検及び今後の課題 学校法人共生学園 15点

2. 紙媒体の個人情報管理はもとより、SNSへの投稿やPC内の情報管理など教職員の意識向上とセキュリティを強化し管理体制を構築していく。

4. 本年度の目標や計画の総合的な評価結果

教育理念をしっかりと守り抜き歯科衛生士科、歯科技工士科ともに全員受験・全員合格を果たすことができた。
一方、さまざまな要因で残念ながら今年も退学者が出てしまった為、より一層教職員間での情報共有をはかり受入れた学生を全員合格に導ける様に事前のフォローアップ体制を強化していきたい。

【歯科技工士科】

・授業、教育の質の向上

技術習得には欠かせないため繰り返しの授業を続けた結果、準備などの周知前に自ら行動できるようになった。今後、複数内容を増やして継続力を高めたい。

学生全体ではもちろん個々の見極めを常に行い、学生支援に努めたい。

国家試験合格について

学生とのコミュニケーションを適度に保ち、早期のスケジュールの組み立て周知を行い、試験の対策傾向を教員間で共有し、学生授業に反映できるようにする。

学生への対応に幅を広げられるよう、担当科目だけではなく、総合的に科目を理解し、指導力の強化を努めたい。

・早期の対応校内での決まり、ルール of 徹底、都合のよい言い訳が出ない様、全員が同じ対応と共有をする。

個々の差によるフォロー、指示を的確に行う。連絡漏れがない様、周知事項の記録を行う。

精神面の不安、学力低下傾向にある学生への兆候は見逃さず早めの対応を行う。

基本的な生活習慣を意識させ遅刻・欠席を減少させられるよう担任の学級指導力が高められるよう努める。

・学生と教員間の信頼関係の構築

集団での行動の乱れが起こらないように各自意識して、最後までやり遂げられるよう粘り強く指導にあたり、信頼関係が構築できるよう努める。

・教育目的を意識させた運営

学生同士の人間関係、社会人としての自覚と常識(挨拶、身だしなみ、礼儀マナー)の教育を行っていく。

合同の授業などを通して、チーム医療の理解ができる協調性の指導にも努めていきたい。

卒後、学校教育の差が出ない様な取り組み、提出、規定時間の厳守を意識させる。

【歯科衛生士科】

歯科技工士科との合同の講義や実習をさらに増やし、多職種連携への理解を深める事が出来た。

横浜グリッツ、歯科衛生過程での実習は、両科学生に実習へのモチベーションを上げ、知識の習得に役

立ったと考えている。

また、国家試験前の時期には校内でのコロナウイルス、インフルエンザの蔓延を防ぐため、検温を欠かさず、他学年と隔離し、換気などの対策も怠らなかったため、国試受験生を守り、他学年での感染増加も防ぐ事が出来た。

1 学年

ひとり暮らしの学生で、生活が乱れ早々に退学者が出たため、学生の様子をよく見て保護者とも連絡を取り合い、声がけをする。

期末試験や再試験に勉強をせずに臨む学生が多くいた。そのため、補習や再試験を繰り返し、進級の決定が3月の最終週になった。

実習の習得が遅く、過去の学生に比べ、自己練習をする学生も少ない学年だった。

来年度は実習のデモンストレーションや内容を変更し、対応する。

既に成績下位層に定着している学生には、フォローアップ体制を整える。

2 学年

登院試験は前年度に比べフィードバックする時間を増やし、実技練習時間を多く作ったことから、合格するスピードが速かった。臨床実習先からの評価が成績としては例年通りだったが、実際に会議でお話を伺うと全体的に悪い評価である事が多かった。臨床実習評価に、実習簿の評価も加えたところ、D 判定の学生が6名出た。保護者と共に面談を行ったが、緊張感がない様子が多く感じられた。

3 学年

前年度に比べて早期に、前期より成績別グループワークを開始した。また、模擬試験・確認試験を国家試験当日と同じ環境を意識させ、緊張感を適度に持って臨めた。しかし、勉強に対する意識がなかなか向上せず学生の個々に合った勉強法を提案し勉強へ向き合うように働きかけた。試行錯誤しながら全員合格に結び付いたと考える。また、前年度の反省から国家試験対策中の欠席対策として、臨床実習終了後も欠席1日につき浅野歯科補講を継続した結果、欠席者の大幅な減少に繋がった。

常に、感染症対策を働きかけ受験生であること意識させたことも、欠席者の減少にも、繋がったとも考えられる。

以上